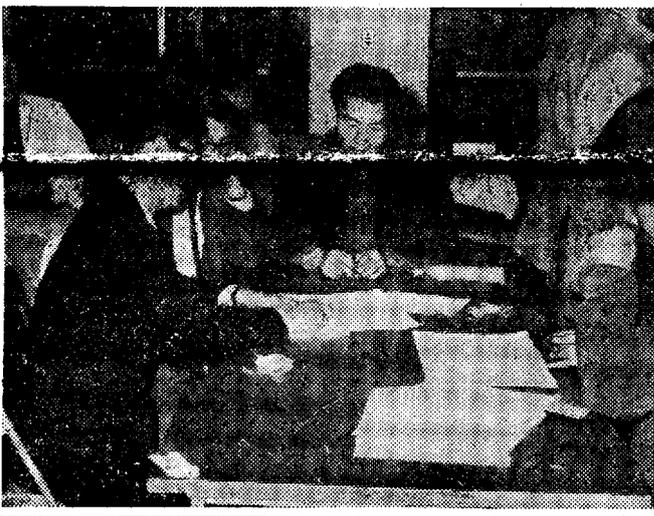


不当逮捕に強く抗議

学生部団交で大学側と確約

機動隊の学館乱入、不当逮捕に抗議する学生は十二午後六時五十分、大学より抗議、逮捕者を即時釈放する措置をとることを要求するよう学生部まで松田孝同部長と話し合いを求めた。しかし七時五十分、学館再度機動隊が立ち入ったの報が来らなかつた。一時的に止まったが、話し合いは進行されず八時、機動隊が再び現場厳正開始のため

松田部長と鈴木俊光副学生部長が学生部と同行、機動隊に激しく抗議した。このため機動隊は直ちに引きあげた。そして引き続き団交が、学館ホールに移され午後八時四十分から再び行われた。学生側は学生部が不当逮捕されたことに關し、松田学生部長に激しい口調で「学生部長として、この事件に対してどんな行動をとるのか」と迫った。学



確約書に署名する松田学生部長と長学生部代表

生部長は「機動隊の学館乱入は遺憾である。不当逮捕には断固たる態度で臨む。これにはマスコミに訴え、社会にアピールする」と述べた。学生側が部長に具体的な行動を迫るのに対し、部長は沈黙しがちであった。部長のマスコミに訴える言葉に機動隊の記者が同会場に呼ばれ、十時半すぎから記者会見が始まり、学生部長が抗議文を読み上げた。

要旨は次の通り。
①大学の自治を守る観点から機動隊が学館に乱入、学生を不当逮捕したことに対し、断固抗議する。
②不当逮捕された学生の即時釈放を要求する。
③国家権力の過剰整備、捜査に断固対決する。
④学生部長として、不当逮捕された学生に、責任を持って弁護上をつける。

席上、新聞記者から、中川学長あるいは木下理事の見解を伺いたいと申し入れがなされたが、学生部長は「連絡がとれないので」と断わった。

記者会見後、再び学生の追求にあい、学生部長は「四月十四日(月)に全学ストを組むよう学長に進言する。が、進言以上のことはできない。その場合は辞任す

る」と答えた。しかし、学生側は「学生の意見を反映する、学生のための生部であるならば、ストは組めるはずである。ストを認めないのは理事会から存在準備を認められていないということだ。そんな生部は廃止せよ」となごも詰め寄り、ついに、午後十一時四十五分長善一学生会中執委員長代行、炭谷久雄学苑会中執委員長と確認書を交わすに至った。

確認書の要旨は次の通り。
①国家権力の学館乱入、学生の不当逮捕に抗議し、四月十四日全学ストを組むことを学長に進言する。
②学生部長の進言において、右の事をなす。できなかった場合は、学生部の廃止を実行・実現する。
松田学生部長談 あくまでも本学生の不当逮捕には抗議し、即時釈放を訴える。抗議ストについては何もいえない。